

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600158		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホームあいか 3階ユニット		
所在地	名古屋市天白区御前場町1番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年1月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成22年11月に開所したまだ新しい事業所です。事業所のある地域は、昭和40年代後半に開発が進み、自治活動の活発な地域です。そのような立地にある事業所で大切にしている事は3つあります。一つは、ご入居者お一人おひとりの個性を發揮できる事。二つ目は、楽しみの多い生活が作れる事。3つ目が普通の暮らしを送っていただく事です。昨年の活動では、春は梅見、花見、知多への旅行。夏はピクニック、近隣の夏祭り、事業所での花火など。又、秋は、ぶどう狩りにバーベキュー。冬はみかん狩りや鍋料理を囲んでの日々の食事も餅つき、ご入居者とご一緒に作るおせち料理など、普通の家庭で行われている事を楽しみながら行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイホーム、シニアハウス併設であることから、まず事業所内での地域交流に始まり、日常的な散歩や買い物といった外出、地域行事への参加、日帰り旅行へ出かけるなど、積極的に楽しみのあるいきいきとした日々を利用者が送ることができている。利用者にとって馴染みの場所もまだまだ近隣に残っており、また近隣住民との交流もあり、安心できる環境にある。パーソン・センタードケアと言う手法をグループホームの運営の基盤に置き、新設であることを利点として職員に利用者が個々の人としてその人らしくあるための支援とは何か、研修を課して勉強を重ねて事業所のサービスの質の向上に努めており今後期待できるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で運営理念を作り、理念に基づいた目標を毎月設定し日々の業務に取り組んでいる。又、職員一人ひとりの目標を設定する際にも、理念の実践の具体的な行動目標が設定されている。	パーソン・センタード・ケアを支援に取り入れそれを基本に、全職員で理念を作り、ユニットごとの目標を設定してなぜそれを目標に掲げたのか理由を明確にした上で実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的参加をしている。町内新聞を掲示し、ご利用者が選択し参加する。ご自身で掲示物を読むなどされない方は、職員が本人の意向を伺いながら行っている。	近隣幼稚園からの訪問演奏会や、自治会行事への参加、中学との交流計画もあり、活発な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の家族教室で講話させていただいている。又、地域の中で生活の中の交流の折、相談される事がある。他には運営推進会議等を通じ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご利用者やご家族のアンケート内容の改善策等のご意見をいただいたり、取り組みの結果の報告をさせていただいている。	運営推進会議で上がった課題は次会議までに対策がなされている。例えばみかん狩りなど、グループホームの活動を自治会に報告したり、自治会から問い合わせのあった緊急避難時のための利用者名簿の作成などを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と事業所の抱える問題等を相談させていただいている。	市町村担当者から問い合わせや依頼があれば、認知症の勉強会へ参加したり、講師を派遣したり、また研修会へ参加したり、協力関係もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等のテーマの研修をしている。玄関はオートロックとなっているが、利用者ご自身で開錠し外出されてる」方もいる。又、開錠方法がご理解できない方の外出の希望は、出来るだけその場で対応し外出支援している。	身体拘束について、常に職員の間でも話しあわれ、スピーチロックも含め、拘束のない支援に努めている。ただ、利用者の安全のために「家庭におけるルール」のように、外出時には利用者も職員も声かけするという規律をもった支援がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、虐待防止、認知症の方との関わり方及び倫理の研修等を実地しており学習している。又、OJTの中でも常に学習している。見過ごされることのない様、全ての職員で言葉での虐待を含め取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について研修を実施しており、職員は権利擁護制度の理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項を持って説明、しその他、疑問や不明な点をお尋ねしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所独自のアンケート調査をおこなっている。又、ご本人のご要望はその都度お聞きしている。言いにくいと感じている事もあるとの想定もされ、こちらからお尋ねしている。運営に反映させるために月2回職員の間で話し合っている。	事業所の玄関に利用者家族用のアンケートボックスを用意している。また訪れた家族に職員が要望を聞いたりすることで、利用者や家族から不満があった食事内容を改善したり、外出先を選んだりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを毎年おこなっており、改善している。又、業務改善の提案ができるよう用紙と回収箱を設置している。	本部から職員アンケートを実施して、管理者に言いにくいことも問題があればとりあげられるような体制がとられている。また、職員からの提案で、勤務時間を工夫して職員間の交流会(忘年会、新年会)も行うなど、職員の意見が取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価と上司評価を持って、職員個々の努力を給与等に反映させている。遣り甲斐については常に話し合う。又、遣り甲斐につながる研修をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量を管理者は把握しており、必要な研修を法人内、外部の研修等の機会を設けている。又、外部研修は、管理者の勧めで行く事もあるが、募集を掲示し希望者にはできるだけ受講できるよう図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に事業所が12事業所あり交流を図っている。他法人との交流は外部研修その他で職員各自行っている。その中で啓発された事をサービスの質の向上につなげていくよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にできるだけ情報の収集の行っている。又、安心感が得られるまで寄り添うなど個別な対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にできるだけ情報の収集の行っている。ご相談がしやすいよう面会の都度、管理者はご挨拶に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時を見極める為に、聞き取りをご本人視点でお聞きしている。他のサービスが適当と思われるときは提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に家事を行うなどし、その中で教えていただく場面があり、ご利用者と相談しながら共に生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とケアの方法など相談しながら行っており、ご協力が必要な時はご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出などできるところから行っている。御面会していただきやすい雰囲気作りにも努めている。	利用者の古くからの馴染みのうどん屋や喫茶店、スーパーなどに日常的に出かけている。また、利用者の要望で競馬場にも出かけることもある。特別な外出ではなく、要望があればできるだけ支援しようという事業所側の考えがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で「問題解決できるときは見守るなど必要に応じた支援を行っている。そのため、ご利用者同士で支えあう場面が増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、ご相談はいつでも受けている。退去者が他施設の場合面会に行くなど行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソン・センター・ド・ケアの研修等を行っている。職員は、パーソン・センター・ド・ケアの視点でカンファレンス等で検討している。そのため、ご利用者一人ひとりの思いに焦点を合わせ、意向や希望の把握に努めている。	職員は、利用者の言動や行動を「どうしてだろう」と常に興味を持ち、考えながら支援している。ひもときシートを利用して思考の整理を行ったり、カンファレンス等で話し合い、気付きや情報を共有し、本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方や生活歴の把握は初期にも行うが、その後、ご本人から聞き取りやご家族から伺うなど随時把握に努めると同時に、今の記憶にあるなじみについての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事、できない事シートを使用するなどその方の有する能力の現状把握に努めると共に、有する能力の発揮のするために必要な支援等を常に検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のより良い暮らしの課題や援助についてご家族やご本人と常に話し合っている。	カンファレンスでは、本人の思いや家族の要望をもとに職員の気付きやアイデアを引き出せるように話し合っている。介護計画は、意欲が向上できるように役割や、楽しみ事等が盛り込まれ、評価、モニタリングが行われている。状態変化に応じて随時の見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の気づきやご本人のお言葉を記録し、情報の共有をしている。その事によって介護計画やケアを見直し、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズのその都度対応している。対応の方法については、柔軟に対応できる方法を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの社会資源の把握に努め、常に情報を探している。その生かし方としては、ご家族だけではなく、様々な方の有する力を資源としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望のかかりつけ医を持っていただいている。その折に、事業所にて受診を援助したり情報の提供を行っている。	月2回ホームの協力医の往診がある。また、利用前からのかかりつけ医への受診は家族と相談し、臨機応変に対応している。歯科は身体状態に応じて往診体制をとり、眼科、整形へは職員がつきそうが、遠距離の場合は実費対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ介護職員は体調の変化等の気づきを伝える等をし、適切な受診が受けられるようにしている。又、協力病院の医師と看護師とは気軽に相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必要な情報の提供を含め病院関係者と話し合いをしている。途中経過等についても7問い合わせするまどし早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときの対応について、ご家族と順次話し合いをしている。又、事業所の見取り介護の指針等をご説明している。その他、協力病院の医師と支援できる方法についても話し合いしている。	開設間もない為、看取りの経験はない。契約時に本人、家族の希望を聞き、ホームの方針を説明している。状態変化時には、再度希望を聞いて、協力医と連携を図り、最善の方法がとれるように対応して行きたいと考えている。現在、終末期、緊急時の確認書の作成を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、緊急時対応及び応急手当については社内研修で行うと共に、外部研修にも順次出ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内との協力体制ができるよう自治会と取り組んでいる。又、防災訓練を定期的に実施し利用者の避難方法の訓練を行っている。	建物内の設備は整い、災害時には全館に一斉放送がかかる。昨年9月に夜間対応の避難訓練を行なったが避難方法や誘導について全職員へ周知できていない。地域との協力体制を整える為にも町内へ利用者名簿の届出を検討している。また、地域へ避難場所としての利用を申し出ている	災害時の対応については、全職員への周知徹底を望む。また、利用者と一緒に訓練を繰り返し、職員が落ち着いて行動し、利用者の不安を減らせるよう努力してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や尊厳を大切にしている。言葉かけや対応も大切にしているが、倫理や認知症の方への理解が大切と考え研修している。	管理者は職員にその人の尊厳は何かを常に問いかけ、職員が自分で考えて行動できるように指導している。職員は腰を低くして目線を合わせ、利用者の話に耳を傾け、丁寧な言葉で対応していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝のコーヒー等の嗜好品の希望もその都度お聞きしている。言葉で表せない方へは様子から希望を推察する。又、選択が難しい方へは、二者択一で選べるように支援するなど自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にできるだけご自身で過ごし方を決められるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と相談しながら、身だしなみに気配られるよう、さりげない支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片づけは職員とご利用者と毎回行っている。又、食事が楽しみになるよう献立を一緒に考える事もある。	基本の献立(宅配食材利用)にアレンジを加え調理をしている。また、利用者の好みや希望を聞き、一緒に買物に行き調理をしている。職員は利用者に関心を配り、言葉をかけながら一緒に食事をしている。落ち着いた雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一度の食事量が少ない方へは時間を置いておにぎりを用意するなど個々の状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア介助やお声かけをその方の状態に合わせてしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録によって、排泄サイクルをつかみ失敗の無いように、若しくは失敗が減るようにトイレへ案内している。	排泄状況を確認して、トイレで排泄ができるように支援している。時間を見て言葉をかけ、身体状態に合わせ、できない部分を介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力歩けるように支援している。又、排便を促すよう乳酸飲料やその他、食物繊維が取れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴して頂いている。又、入りたくなる時間などタイミングを見てお誘いしている。	基本は1日おきとしているが、希望に応じて毎日の入浴も可能としている。同性介助や脱衣所に暖房を設置する等、温度差への配慮もある。体調や気分等、タイミングをみて言葉をかけ入浴してもらうが、足浴や清拭で対応する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体力に応じて休息できるよう声かけや介助をしている。又、入床時間等も個々に合わせて介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の変更があった時は、服薬の目的や副作用、用法、用量を申し送りしている。症状の変化については記録されてい確認がされ、申し送りされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活で、役割を個々に持ち、行事など楽しみ事の用意をしている。又、個別にしたいことができるよう、個々の楽しめる事の把握に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できるだけ、その日、その場で希望に添った外出の支援に努めている。又、ご家族と希望の場所へ出かけられるよう、ご本人がおっしゃた事をお伝えする等している。外出時にボランティアの方もお願いしている。	毎日の散歩は日課とし、その日の希望により買物等の支援もしている。どうしても都合がつかない場合には、きちんと話をして時間を調整するなどの対応をしている。また、外食や季節毎の行事、年2回のバス旅行等、外出を楽しんでもらえるよう支援している。家族やボランティアの協力もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご自身で管理し所持している方は、ご自身で財布を持ち買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症状の重いユニットではあるが、ご家族に電話をするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光には配慮し、カーテンを適時使用するなど心がけている。キッチンリビングと一体となってい生活感が感じられる作りとなっている。	対面式のオープンキッチンと太陽の光が差し込むリビングは、利用者が居心地よく過ごせる場所である。行事の写真が飾られ、食事時には食欲をそそる匂いがして生活感もある。トイレや浴室等も清潔に保たれ、不快な臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大き目のリビングの他に小さなリビングを設けているためそちらでも過ごすことはできる。しかし、ご利用者は自室がくつろげるスペースがあるため一人で過ごしたい時は自室でくつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談しながら使い慣れたものをお持ちいただいている。	使い慣れた家具や家族の写真が飾られ本人が落ち着いて過ごせるように配慮している。また、家具の配置を変えて、転倒を防止できるような工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部を自由に行き来し安全に暮らせるよう目印をつけるなど工夫をしている。又、調理など家事に参加しやすいよう、対面式でオープンキッチンとなっている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2391600158
事業所名	グループホームあいか

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） まず、デイホームである施設1Fとグループホームである3F・4Fの利用者の交流というごく身近な地域交流から、自治会への参加や、近隣幼稚園からの訪問、中学校からの訪問など、地域に根をおろしつつある。施設側から家庭教室へ講師派遣などの実践もある。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 年に6回の運営推進会議を運営している。会議でとりあげられた問題点（たとえば自治会との関わり方）があれば、次回までに回答できるように取り組んでいる。運営推進会議を通して、認知症の理解を広めるべく会議参加者を募るようにもっていかうとしている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 市町村が開催する研修に職員は積極的に参加している。日ごろから担当者とのつながりを持つよう努めている。また、担当者からの相談にものれるよう常に準備している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族に毎月ホームからの「グループホームあいか通信」が届けられ、利用者の様子が写真入りでわかりやすく伝えられている。家族や利用者からの意見をもとに、食事内容の見直しがされるなど、意見や要望を取り入れた運営がなされている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	—	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。